

栗品種「ぼろたん」の果皮黒変果低減対策

栗品種「ぼろたん」は大粒・良食味なことに加え、渋皮がむけやすいという特徴を持っており、消費者からのニーズも高く、県内の産地で広く栽培されています。しかし、果皮が黒変する症状が発生しやすいという報告が複数あり、本県においても日高市で「ぼろたん」の外果皮が黒変し、外観品質の低下を招く果皮黒変果が問題となっています。

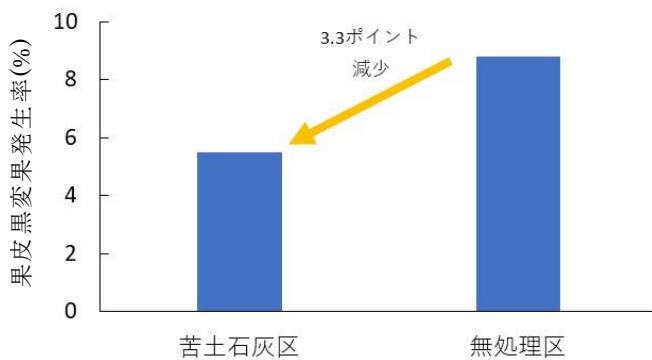
そこで、対策技術の検討を行った結果、「ぼろたん」栽培地のうち土壌の交換性石灰含量が栗の生育適性値より低いほ場において、石灰資材を施用したところ、果皮黒変果の発生が低減する傾向がみられました。



「ぼろたん」果皮黒変果は外果皮が黒変し、外観品質の低下を招く

調査地域	pH	EC	交換性塩基		
			K ₂ O	CaO	MgO
	(H ₂ O)	(mS/cm)	(mg/100g)		
多発地域	5.2	0.12	61	166	18
健全地域	6.1	0.08	70	343	44

日高市において果皮黒変症多発地域と健全地域の17ほ場で土壌分析を行ったところ、多発地域では交換性石灰が低かった。



果皮黒変果発生ほ場で石灰資材を施用したところ、土壌中の交換性石灰が増加した。また、苦土石灰区において果皮黒変果発生率が無処理区と比べ低下した(本図)。



これらの結果を元に、果皮黒変果対策技術マニュアルを作成し、日高市の栗生産者に周知した。